



いづみ

No.38

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 8



《ネエ ダンナサン あるいは末・和・動》 阿部 典英

自作自選 8 作者の言葉

制作にあたり家族の表現、足を運ぶ表現、楽しい表現、歴史の表現、農業の表現を念頭に置き、3体の組み合わせで「和」という親近感を持たせた。また、動きのある形には複数の足を配し、生き物の雰囲気表現。頭部には毛のようにも見える触手を配してユーモアを織り込んだ生命力を表した。全体的に四角錐を逆にした形として町やここを訪れる人びとの広がりの意味した。これらのことを包含して作品名を「ネエダンナサン あるいは未・和・動」としたが、中山峠の空を突き破ることが出来ただろうか。(阿部典英)

タイトル：「ネエ ダンナサン
あるいは未・和・動」
設置場所：中山峠森の美術館前
(喜茂別町)
制作年： 2001年10月
素材：ステンレススチール、アルミほか
サイズ：高さ4.5m、4.0m、3.5m
(3体組み)

連載 宮の森の四季 8

本郷新記念札幌彫刻美術館

開館30周年の節目を契機に新たな一歩を!

館長 佐藤 信

本郷新は生前、「いかめしい美術館ではなく、市民が気軽に立ち寄れる美術館が欲しい」、そしてまた、「私を乗り越えて若い芸術家が北海道でどんどん生まれてほしい」と語っていたとのことです。

開館30年という節目を迎えた昨年は、本郷新が語っていたその原点に戻り、より魅力ある展覧会を企画いたしました。多くの作家さんの全面的な協力をいただき、第一弾として開館30周年記念抽象彫刻30人展が、第二弾として具象彫刻30人展が大好評の中で終えることができました。

9月24日からは札幌創成川公園に設置された「スノーリング」で第15回本郷新賞を受賞した西野康造彫刻展が開催されました。開会式には上田文雄札幌市長も駆けつけてくださり、受賞作品が本郷新の故郷札幌に設置されていることをとても喜んでおられました。

30周年記念展覧会の最後は、現在開催されている抽象・具象彫刻60人展です。北海道を拠点に活動し、多彩な素材や手法でそれぞれの表現する60作家の競演には圧倒されてしまいます。例年、冬季になると来館者が極端に落ち込むのですが、おかげ様で今回はその心配もなさそうです。

このたびの30年という節目を契機に職員と力を合わせ、より魅力ある美術館づくりを目指す決意ですので、今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

心はカタチになる？

加藤 多一

彫刻家佐藤忠良さんのことを書きます。

だれでもがセンセイと呼ばない(呼ばせない)チュウリョウさんは、私の恩人であり敬愛する方。2011年3月30日、99歳直前で亡くなられた。

私の300枚の長篇「原野にとぶ櫓」の表紙画とさし絵を書いてくださったのは1978年。夢かとも思う幸運であった上に、月賦で売ってくださいという私に「とても高くなっちゃってね。あなたが買うのはムリ。だからあげる」とぼんとくださった方。(2008年、私はそれを道立文学館に寄贈した)

その「しのぶ会」が半年後の9月18日、東京の品川プリンスホテルの壮大な会場で行なわれた。

本が売れない時代の年金生活者としてはカネのことが心配だったが、断固出席の返事を出した。このように心はカタチ(紙製品。朝鮮侵略を当然としたあの有名な人物の肖像画つき)になったのではあった。

しばらくして、反原発(すべて廃炉にせよ)の5万人集会の連絡があった。東京の明治公園。日時は9月19日。私は即座に2泊3日のハラを固めた。

忠良さんの会では澤地久枝さんとの久しぶりの出会いがあり、転倒して入院、回復したとはいえ、いつもの和服姿で杖にすが

姿が痛々しかった。澤地さんは翌日の集会の発起人だ。

その澤地さんのスピーチがすごかった。美術評論家の酒井忠康さんのは別として、おきまりの美辞麗句の連続のあと、澤地さんは平和主義(イノチが一番という心にすぎないのだが)忠良さんのエピソードを話した。

「自伝」にもある話—

ソ連軍との戦闘の最前線で忠良さんの隊は食糧も武器も乏しいなか最後の突撃をすることになった。サーベルをふりあげ「突っこめ」と叫ぶ若い隊長の前で忠良二等兵は「やめましょう」と話した。隊長はひざをついた。

「しのぶ会」の翌日の大群衆(ふくれあがって6万人になった)のひとりひとりの心のカタチを私は見た。政党とも大組合の大動員とも無関係の、子どもを連れた家庭人、ただの生活人が自分のカネで全国からこんなに湧いてきたのだ。昔のデモとは違う。そのことに私は胸を熱くした。この熱さはカタチでした。

かとう・たいち 童話作家。1934年、滝上町出身。札幌市役所勤務時代、芸術の森設立責任者として携わる。稚内北星短大教授を経て現在、長沼町在住。「ふぶきだ走れ」「馬を洗って…」「ホシコ・星をもつ馬」ほか。

猫なのかしら？ ヤギだったのかしら？

山内壮夫「猫とハーモニカ」の謎に迫るパンフルート演奏会

久本由美子（会員）

昨年7月の終わり頃、中島公園を歩いていると、ふと聞きなれない笛の音が聞こえてきます。藤棚の傍、菖蒲池に向かって一人の男性が見たことのない形の楽器のようなものを吹いていました。竹の筒を横に並べて繋いであります。少しずつ近寄っていき、のぞき込んだとき、男性が振り返りました。不思議そうな顔をしている私に「これはパンの笛と言います」と教えてくれました。

とっさに、公園の中にある山内壮夫の「猫とハーモニカ」を思い出しました。思わず写真を見せて「この猫のくわえているのはこの楽器ですか？」と聞くと「ああ、間違いなくパンの笛ですね」と断言してくれたのです。

これは皆にも教えてあげたい、笛の音を聞かせたい、映像も撮っておきたい、でも今日は忙しい！

とっさに「名刺をいただけませんか」。名刺を見ると笛の主は愛媛県在住の横地太郎さんで、仕事で時々、北海道に来るとのことでした。その後、お互いにメールで連絡を取り合い、再び札幌に来た8月、橋本信夫会長ほか何人かに声をかけ、また、笛の音を聴かせてもらいました。「パンの笛」は男性の手作りと分かりました。

ギリシャ神話に登場する「牧神パン」が作ったと言われる「パンの笛」は葦で出来ているそうです。でも音は葦よりも竹の方が良いそうで、世界的にもパンの笛（パンフルート）は竹が多いそうです。

「猫とハーモニカ」の前で横地さんが奏するカザ

ルスの「鳥の歌」を聴いていると、ここにあるのは猫ではなく牧神の像でした。ところで、牧神パンはヤギの顔をしているのですが、この彫刻はやっぱり猫に見えますねえ。

「パンの笛の君」が9月には1週間ほど札幌に滞在すると知り、橋本会長がミニコンサートを開いていただけないかとお願いしました。いままで変なハーモニカだと思っていたものが「パンの笛」という実在する楽器だったのです。これは是非とも多くの人に聞いていただきたいと思いました。

こんなことから9月18日、中島公園の「猫とハーモニカ」の前で「パンフルート」のコンサートが開かれました。あいにく雨模様の天気でしたが、

20人くらいの方が集まりました。

ドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」というリクエストにもこたえて頂き、「パンの笛の君」の楽しいお話に、笑いながら幸せなひと時を皆で分かち合いました。当日の様子は北海道新聞や朝日新聞でも記事となりました。

さて、「猫とハーモニカ」のハーモニカは、本当は「牧神パン」なのかしら？ ヤギと言われても、そうは見えない「猫」の顔とヤギに見える足を持つこの彫刻、作品名は作者が付けたものではないそうです。なぜ、「猫とハーモニカ」になったのでしょうか。謎は深まるばかりですが、まずは「ハーモニカ」ではなく「パンの笛」と知ってもらうのが良いのかもしれないね。



友の会秋のバスツアー

鈴木吾郎氏アトリエ訪問と「ハルカヤマ藝術要塞2011」展

友の会主催の秋のバスツアーが昨年9月24日に行なわれた。小樽市の彫刻家・鈴木吾郎さんのアトリエ訪問とこの日オープンを迎えた同市春香山の「ハルカヤマ藝術要塞2011」展のオープニングセレモニーに参加するなど、芸術の秋を楽しんだ。

前日まで心配された天気もさわやかな好天に恵まれ、55人がバスに揺られながら小樽市奥沢の鈴木吾郎さんのアトリエ前に到着。出迎えた鈴木さんがバスの中で仕事の様子を説明したあと工房を見学した。



テラコッタに魅せられて

清杉久義さん（会員）

ツアー参加で鈴木吾郎さんのアトリエ訪問が感動的だった。以前からテラコッタの持つ雰囲気が好きで、図録などでも鈴木さんのテラコッタ作品に魅せられていたので、アトリエ訪問はまたとない機会だった。雑然とした中であつた女性のテラコッタは髪の毛が風になびくような柔らかな優美な感じがとてもよく、ますますテラコッタが好きになった。また、2階に上がって鈴木さんとも言葉を交わすことができ、至福のときを過ごせた。

アトリエ訪問の後、ガラス作家・浅原千代治さんが経営する天狗山ロープウェイそばの「ザ・グラス・スタジオ」を訪れ、製作工程などを見学した。

会員の渡辺行夫さんが借り受けた土地を仲間と造成した約3万㎡の敷地を使って開いた野外彫刻展「ハルカヤマ藝術要塞2011」を訪れ、オープニングパーティーに参加して開催を祝った。

要塞の始まり

阿地信美智さん（要塞展実行委事務局長）

昨年10月末、ハルカに行った。「あれ一、本当にやっている」ユンボを動かす渡辺さんの姿

を見た私の感想である。一昨年、ハルカでの花見。芸術空間の構築を熱く語る渡辺さん。私はインドア派の作家、あまり興味なし。昨年9月、日韓交流展のため渡辺さんを含む作家6名で訪韓。宿泊先はいつも同室。早寝、早起き、喫煙が部屋割りの理由らしい。扶余、ソウルを回った。年齢はひと回りも離れているが、気の置けない関係が旅を楽しくさせた。そして昨年整地作業にひたむきな姿を見守っているうちに胸がキュンとなった。「ねえ、一緒にやろうヨ！」と渡辺さん。なぜか、「いいですよ！」と即答した私。訪韓の余韻でうっかり約束してしまったのが要塞作りの始まりである。

会場内には道内の芸術作家56人から63点の作品が展示され、この日は各作家から出品作についての説明があり、友の会の会員もお気に入りの作家との交流を深めた。



時代の空気切り取った作品群

永喜多宗雄さん（会員）

この会への新入りの私には心細い気持ちでの参加でしたが、現地ではなじみの作家さんなど数人と声を交わし落ち着きました。30年ほど前、陶芸家・故下澤土泡氏に手ほどきを得た私には息子さんの敏也さんから自作の解説を聞いたのは幸いでした。

常設の恒久的野外彫刻展は芸森にもありますが、その時代の空気を切り取った瞬時の作品群にはそれなりの迫力がありました。

友の会主催札幌彫刻美術館貸し館企画

「市民が愛蔵する彫刻コレクション展」(仮称)

開催に向け準備着々 近く実行委員会立ち上げ

会期は 2012 年 8 月 29 日から 9 月 2 日まで

友の会が本郷新記念札幌彫刻美術館の会場を借りて今年 8 月開催予定の彫刻企画展の準備が進んでいる。近く実行委員会を立ち上げ出展作品の絞り込みを行なう。

企画展は札幌市民が持っている彫刻コレクションを出品してもらい、通常は美術館で見られない味わいある彫刻作品を展示しようという狙い。「市民が愛蔵する彫刻コレクション展」(仮称)とし、会期は8月29日から9月2日までの予定。

すでに会員から30点余りの出品協力があり、さらに会員外からの出品も交渉して同美術館の本館展示室を使い、友の会発足30周年記念企画にふさわしい展覧会にする。友の会顧問の國松明日香氏ほか彫刻美術館の樋泉綾子学芸員、梅内親治業務係長をはじめ美術館の全面的な協力、指導を仰ぎながら作品の搬入搬出、展示作業などを委託する専門業者との折衝、助成金確保のための受け入れ団体探しなどがスタートしている。なお、会員からの作品所蔵者の紹介なども歓迎しており、友の会役員などへの連絡を待っている。

東北の被災地へ丹前送る

友の会メンバーが協力

朝夕の寒さが身にしみるようになった昨年10月末、東日本大震災の被災地・仙台市の支援団体から緊急依頼を受け、友の会のメンバーが急遽、仲間呼びかけて集めた丹前など



の防寒用衣料60点余りが依頼団体へ届けられた。

集まったのは丹前のほか、かい巻き、半てん、ちゃんちゃんこなどで、協力を求められた細川房子会員らが友の会や SSN (サッポロシニアネットワーク) の仲間に訴えところ、絹織物、羊毛、綿など心のこもった衣類が集まった。細川さんは「集まるかどうか心配だったが、色も柄も素敵な品がいっぱいで人の心の温かさに感激した」と話している。品物は支援団体を通して釜石方面に届けられたという。

2012年友の会新年会

1月28日ホテル「ノボテル札幌」で

2012年札幌彫刻美術館友の会の新年会は1月28日(土)午前11時から、中央区中島公園内のホテル「ノボテル札幌」で行なわれる。

一年間の活動状況の紹介やアトラクションなどで新年を盛り上げる。

会費は4000円。なお、2012年度の年会費も受け付ける。

道内野外彫刻写真約1万枚

仲野コレクション

データ入力作業順調に進む

会員の仲野三郎さんが長年にわたり道内をくまなく歩き収集した野外彫刻の写真とデータのパソコンへの取り込み作業がスムーズに進んでいる。

このコレクションは仲野さんが25年もの歳月をかけ、膨大な時



間と労力を費やして道内に点在する野外彫刻ざっと2300点を写真にして約1万枚に記録した。各作品の作者、作品名、設置場所、サイズなどを市町村別に詳細な手書きデータにまとめており、友の会が昨春、仲野さんの好意で引き継いだ。

昨年秋から有志の会員で手書きデータをパソコンに打ち込み、さらに1作品3、4枚に記録されたプリント写真を1点ずつスキャナーでパソコンに取り込む作業が続いている。ほぼ半分程度終わり、間もなくデータ取り込み作業が終了する予定。

データが出来上がることによ

って、仲野コレクションの一括管理と情報検索が可能となり、彫刻データベース資料としても活用できる。さらに、地図上で検索し、作品の設置場所、解説記事、作品の写真などを見ることが出来る「札幌彫刻地図コンテンツ」の作成、また、このデータを利用して彫刻ガイドブックの作成など将来への期待が寄せられている。

「Kitara あ・ら・かると」に協力

「キタラ・クイズウォークラリー」

子供たちに大人気

札幌コンサートホール・キタラの主催で昨年10月8日から3日間、札幌・中島公園で開かれた「Kitara あ・ら・かると」に友の会が初協力、同公園内の彫刻をめぐるクイズ・ウォークラリーを行なった。

小中学生を対象にして公園



にある音楽に関する彫刻を回りながらクイズに答えるというもの。キタラホールの前にある安田侃作「相響」を子供が手をつないだら何人の輪ができるか

というクイズのほか、山内壮夫の「猫とハーモニカ」「笛を吹く少女」にまつわる質問が出された。各彫刻の前には解説の友の会会員が待機、子供たちに彫刻の説明などをして、子供たちの手助けをした。

秋の野外彫刻清掃終わる
高圧洗浄機が威力発揮

友の会のメセナ会員から寄贈を受けた高圧洗浄機を使って昨年9月、10月に2体の彫刻清掃を行なったが、いずれも強い圧力で汚れを落とし、これまで手が届かなかった高所への清掃に力を発揮した。

札幌観光協会の依頼で9月16日には羊ヶ丘展望台の「クラーク博士像」を清掃した。多くの観光客が見守る中、洗浄機のノズルから勢い良く水が吹き出し、これまでは手の届



かなかった像の上部にまで水しぶきがかかり、クラーク博士もたちまち「水も滴る美男子」に。

一方、10月30日には大通公園の「漁民の像」の清掃にも高圧洗浄機が出動し、市民の前に威力を見せた。この日は洗浄機に詳しい専門家の参加もあり、使い方の支援を受けた。

事務局日誌

▼9月8日=9月定例役員会(仲野コレクションPC取り込みなど)▼
16日=羊ヶ丘展望台クラーク像清掃(高圧洗浄機初出動)▼18日=パンフルート演奏会(中島公園)▼24日=秋の芸術鑑賞バスツアー(小樽・鈴木吾郎アトリエ訪問、春香山藝術要塞2011展鑑賞)▼10月8—10日キタラ・ア・ラ・カルト・クイズラリー実施(中島公園)▼13日=10月定例役員会(友の会企画展、新年会などについて)▼30日=大通公園「漁民の像」清掃▼11月10日=11月定例役員会(企画展助成金申請、会報38号編集企画など)▼12月8日=12月定例役員会(新年会、会報校正など)

編集後記

今号の巻頭言をお願いした古いお付き合いの加藤多一さんから「巻頭言とは古いね。権威的だし…」とのご意見をいただいた。以前からその思いはあったが、代わりの名案が浮かばない。どなたかおしゃれなタイトルを考えてくれませんか。(大内)

札幌彫刻美術館友の会会報

「いずみ」 No.38

2012年1月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」38号 目次

自作自選 8 《ネエ ダンナサン…》阿部典英	表紙
作者の言葉	2
宮の森の四季 8 「開館30周年新たな一歩を」佐藤信	2
巻頭言「心はカタチになる？」 加藤多一	3
「猫なのかしら? ヤギだったのかしら?」久本由美子	4
友の会秋のバスツアー	5
友の会ニュース	6-7
企画展準備 被災地へ丹前、新年会予告、仲野コレクション取り込み進む、高圧洗浄機威力発揮ほか	
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

開館30周年記念 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

開館30周年記念

■抽象・具象彫刻60人展—北の作家たち—

会期：開催中～2012年2月12日(日)

展示替えのため臨時休館 2月13日～17日

■後期収蔵品展

「手が語る—彫刻における手の表情—」

会期：2月18日(土)～4月8日(日)

記念館

■本郷新が最期に描いたキリスト像

会期：開催中～2012年4月8日(日)

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>